

全科協ニュース

Japanese Council of Science Museums Newsletter

全国科学博物館協議会 東京都台東区上野公園 国立科学博物館 ☎110 Tel.5814-9857・9858 Fax.5814-9898 平成7年7月1日発行(通巻第143号)

特集 飛躍する博物館をめざして

— 新たなる21世紀型博物館に向けて —

通信総合博物館

学芸員 末永 三枝子

1. 通信総合博物館(ていぱーく)の沿革と目的

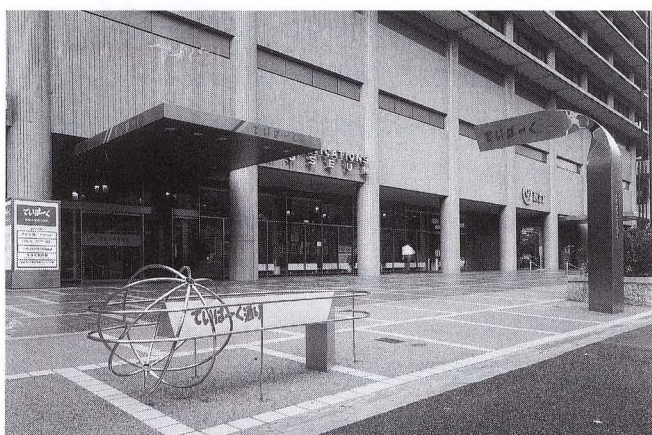
当館は、我が国唯一の「情報通信関係の総合博物館」として、昭和39年12月に郵政省、日本電信電話公社(現在の日本電信電話株式会社)、日本放送協会(NHK)、及び国際電信電話株式会社(KDD)(以下「四機関」という。)により設置された。

情報メディアの殿堂として、四機関共同で一体的に運営し、通信事業の文化の啓発・普及を図るとともに、事業の周知宣伝並びに通信行政の周知を目的として、常設展示、特別展示を通じて広く一般の方々の理解を求め、もって事業の発展に寄与するために設立した。

その前身は、明治35年6月、万国郵便連合加盟25周年の記念事業として、当時の通信省(現在の郵政省)が設置した「郵便博物館」の名称のもと誕生したことにさかのぼる。

当博物館は、科学系博物館と歴史系博物館の要素を兼ね備えた博物館である。

科学系の要素としては通信、電波、放送の現代通信科学の粋を集め、また、歴史系の要素としては通信史の歴史を知る上での貴重な変遷資料や文献等を所蔵している。



通信総合博物館(ていぱーく)

2. 施設の概要

当地は大手町のビジネス街の中心に位置し、交通機関(JR・地下鉄5線の交差駅である)に恵まれた条件を満たす博物館である。

昭和63年に博物館の内部改修工事を行い、併せて展示施設を一新した。

平成元年に博物館の愛称を「ていぱーく」と定め、更に平成2年には、NHK学園大手町ていぱーくスクールを開講したのである。

近年における年間入館者は、平均36万人前後の入館者を迎えている。

平成元年6月には、昭和39年開館以来の入館者が1,000万人を突破した。

施設の構成は、1・2・3階が展示室、4階が研究会や講座のための教室と図書閲覧室、及び事務室等で構成されている。

また、地下1階が食堂、休憩室、地下2階が講堂・資料室等から成り、その面積は13.581㎡である。

1階は特別展示場として研究成果や所蔵資料を広く一般に公開し、人々の生涯学習を支援する社会教育施設として大きな役割を果たすため、多彩なテーマによる特別展を四機関持ち回りで、1回約3週間程度、年間14~15回程開催している。

3. 展示の概要

常設展示場は、2階及び3階で四機関(郵政、NTT、NHK、KDD)の情報通信の分野を機関別のコーナーに分け展示している。

各機関の展示場床面積は、四機関の出資比率により決められている。

館内は、郵便・貯金・保険・電信電話・放送・国際通信など、幅広い通信分野の歴史的資料をはじめ、コンピューター機器等を利用して、みんなで楽しく参加しながらゲーム感覚でいろいろなことが学べるコーナーまで、おもしろ体験の大部分が、参加体験型の展示手法を採用している。

4. 一新後の改装

改装には膨大な予算を伴うため、仲々困難であるが、最近の状況を記すと、平成5年度には NHK コーナーを一部改装し、昨年度は NTT コーナーと KDD コーナーを改装した。

郵政コーナーについては、平成9年を目途に現在検討中である。

昨年度の改装について概要等を展示更新において紹介する。

5. 飛躍する博物館をめざして

これから述べることは当館が行っている教育普及活動の一環で、“常に発展していくをめざして”を活性化の施策目標として、学芸業務を担う職員として模索している活動状況を紹介するものである。

最初にチャレンジした企画に、昭和48年8月の「夏休み子供大会」の10日間が挙げられる。

当時はまだ、他の博物館では挑戦しえないようなユニークな企画内容であったので博物館としての概念からはみ出しているようにも感じられた。

1階特別展示場に特設ステージを設け、博物館で1日楽しく過ごせるよう配意、工夫した。

開催内容は講演会、図工教室、音楽会、ぬいぐるみ人形劇、エレクトーン演奏、映画会など多彩なイベントで来館者を誘致した。

博物館としての知名度は広まり入館者も年々増加の推移をたどり、且つ博物館（旧来の博物館のイメージ）の存在認識も新たになったものと思慮される。

これが契機となり、館の知名度もさることながら企画内容の充実に重点が置かれ、昭和50年12月の「版画とマンガ」の特別展では、会期15日間で10万2千人余の入館者があった。

催事の内容は、郵政省が主催する「全日本年賀状版画コンクール」の入賞作品500点を選んで展示し、マンガのほう

は、少年少女向け著名作者39名の漫画原画を約600点を借用して展示した。

そして、一方子供たちに楽しく遊んでもらおうと、マンガの立ち読み、落書き、自習といった各コーナーと本の交換コーナーを設けた。

また、鉄腕アトム、リボンの騎士、ジャングル大帝等の映画も上映し好評を博した。

「マンガ族は低俗だ」と真剣に問われていた、その折も折、博物館が敢えて取り上げたことについて、客集めにマンガを利用したことは、大衆や時流への迎合ではないか等 etc一批判はあったようだ。

しかし、一人でも多く博物館に来てもらえるよう積極的にあらゆる努力を惜しまなかったことも事実である。



「版画とマンガの特別展」

時代のニーズに即応したイベントを開催するということは、博物館に関心が無い、興味が無い、足を運んだことが無い等、無関心層へのアプローチであって誘致の一つの手段なのではなかろうか。

来館者となって初めて博物館に親近感を抱き、そして常設展示場までも足を運んでくれる。

このことが博物館本来の目的である通信文化の啓発と事業周知に多大な効果を挙げたと言えるのである。

展示資料がどんなに、貴重且つ重要であったとしても、見学者が無では、資料は後世に伝承するとしても死蔵してしまうのである。

一人でも多くの方が資料に触れる機会をと考え、新規開拓を試みた次第であり、また、現在もなお多種多彩なイベントに挑戦しているのである。

しかし、博物館が遊園地的存在になってしまつては、見学者は飽き、且つ資料調査のための見学者の妨げともなり、博物館としては見捨てられてしまうのではなかろうか。

博物館は幅広い年齢層の人々を対象に、展示の理解や鑑

賞を援助し、所蔵資料の有効利用を図るとともに、博物館との結びつきにおいて、(展示を通して、創造性、思考力、表現力を高める)、それぞれの館の特色とする学問や文化への関心、理解を高めるために、館の内外活動において展開される博物館活動の一環なのが、博物館の教育普及活動の意義なのではなかろうか。

6. 教育普及活動の具体例

恒例行事として定着し、来館者に親しまれている特別展と連動させた夏休み子供大会を紹介するとともに他の教育普及活動も併せて一部を紹介する。

(1) 夏休みこども大会

名 称 — マジカルランド大冒険 — 夏休みこども大会
開催主旨 子供の才能発見や資質・想像力の向上に役立つことを目的とし、親子、友達同志と楽しみながら遊べる、ふれあいの場や情操教育の場を提供する。

期 間 平成7年8月18日(金)～8月31日(木)

月曜日を除く 12日間

展示内容 ①魔法陣グルグルの展示コーナー
・魔法陣グルグルの原画展
(衛藤ヒロユキの原画作品15点)
・魔法陣グルグル(アニメセル画50点)
・魔法陣グルグルのファミコンゲームコーナー
・キャラクターグッズ等の販売コーナー
②かるチャー広場(手軽に出来る工作教室)
③美術ギャラリー(少年がんがん連載の原画24点)
④世界名作ぬいぐるみ人形劇の上演
⑤アニメ劇場「魔法陣グルグル」の上映
⑥夏休み宿題教室
(図工カリキュラムに基づき粘土・木工等を指導)



「夏休みこども大会」

(2) PTA 広報誌作り講習会 (5月中旬頃)

当館と読売新聞社が連携して、学校やPTA等の関係者に広報の企画の立て方や編集の仕方などを教える講習会
受講者数 655名

(3) ジュニアテレメイツ (11期生 65名)

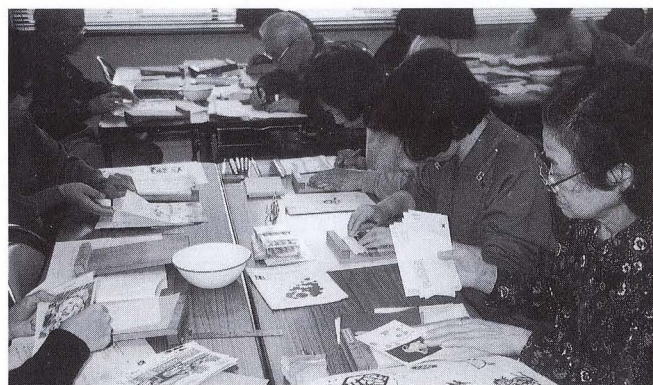
小学校高学年(4・5・6年生)を対象に団体の中で協調性、創造性を養うことを目的として体験学習を主体に開催
・光ファイバーを使ったクリスマスツリーの工作教室
・新潟県湯沢にてフィールド体験スクール等

(4) 電信電話教室(随時)

中学校等からの依頼により、電気通信史等の学習教室
・電気通信の現状と将来について
・電気通信発達史について等

(5) 年賀状版画の作り方教室(400名募集)

毎年11月の中旬から12月にかけての土、日曜日に、高校生以上の版画作りの初心者を対象とした年賀状版画の作り方教室を開催



「年賀状版画の作り方教室」

(6) 博物館実習生の受入れ

学芸員資格取得のための博物館実習生を受入れ、実習指導を行う。

また、夏休み図工宿題教室の実務指導に当たらせている。

平成7年8月16日(水)から8月29日(火)

実習生 22大学61名

以上、特別展を含めた普及活動状況を簡単に述べたが、21世紀に向け、生涯学習社会の担い手としての博物館として、未だしの感があり常に模索し業務に推進している今日である。

NTT 情報通信館・歴史コーナーの改装

逓信総合博物館
國保 次雄

1. 展示更新の実施経緯

当館での電気通信に関する歴史物の展示は平成元年3月に行われた改装以来6年を経過し、造形物が著しく劣化したこともあり全展示にわたり改装工事を実施し、平成7年3月に完成した。

特に今回の改装を行うに当たって展示場の位置づけについて再検討が行われた。即ち、今回の改装に当たっては、情報通信分野の総合的な社会教育施設としての電気通信の歴史系博物館の要素を明確に打ち出すこととし、来館者が楽しみながら通信への興味と理解を得られるように多くの人々に対して社会還元的なスタンスに立った施設とすることを志向した。また、当館が期待するターゲットを中学生および高校生から広く一般までとし、これらの人々に興味と関心を喚起出来るような展示、演出を図ることとして計画された。

2. 展示の基本的考え方

従来からの展示品目を極力整理して、発達経緯の中での主力機器を中心に見直すことにより、出来るだけ理解し易くすることを念頭として計画されたが、わが国の電気通信発達史の中で、無視出来ない研究資料の内容をより吟味した上で、歴史的な正確性を期すことは勿論であるが、特にわが国の電気通信の発達にさきがけて顕現された電気通信資料として、安永5年(1776年)にエレキテル(起電機)を平賀源内が製作したことや、嘉永7年(1854年)にペリーによりモールス電信機がもたらされたこと、また、ベルが発明した電話機の原型などは電信電話の歴史上において無視できない事柄であることからこの事実を従来に増して強調することも含めて今回の改装の基本理念として計画された。

3. 具体的な展示更新の考え方

(1) 動体展示物の付加

従来の歴史展示については全て静体展示により占められていたが、上記のことを踏まえて、創業前の機器類であるエレキテル、エンボッシングモールス電信機、ベル電話機についてレプリカを作成した。

即ちエレキテルについてはハンドルを操作して摩擦起電機による火花の発生体験を、モールス電鍵操作によるモールス信号の発信体験を、また、ベル電話機による相互通話や再生音による通話体験などの展示に改めることとした。

(2) 部門別展示の実施

電信電話の展示配列を黎明期、電信部門、電話部門、無線・伝送部門の4部門にわけ、使用時代順に配列することとした。

このことは、従来の展示が総体的な電気通信史の発展経緯を年代順に配列し理解を得ることを目的としたが、夫々の部門の発達経緯が混在して却って理解しにくい欠点があった為である。

また、上記のように改めたことで発展の全貌の把握が困難になる部分については、インフォメーション部分に4部門別に「電信電話のあゆみ」(発達年表)を当該事項の社会的な背景も含めて展示することで理解の補足を行うこととした。

(3) 新資料の展示

従来、展示スペースの関係でやむを得ず展示を割愛したが発達史の上で無視することの出来ない機器類等については、今回の展示改装にあたり極力スペースの確保を行うこととした。

新たに追加した展示品を列举すれば次の通りである。



NTT 情報通信館歴史コーナー

I. 電信部門

- ① 関東大震災関連（関東大震災応急措置電信之部）
- ② 写真電送機（NE 式）

II. 電話部門

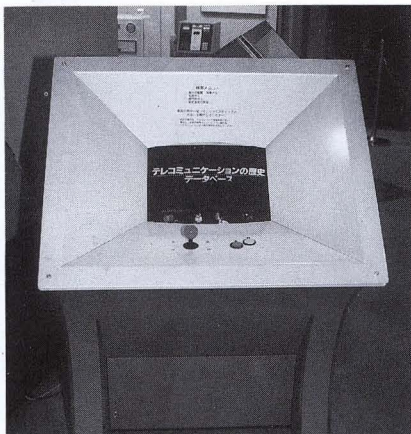
- ① 磁石式単式交換機
- ② A形自動交換機
- ③ クロスバ自動交換機
- ④ D10形電子交換機
- ⑤ VF9号-1S 模写電送機
- ⑥ カード式公衆電話機
- ⑦ テレホンカード
- ⑧ 六角形白色公衆電話ボックス

III. 無線・伝送部門

- ① コヒーラ
- ② 三極真空管
- ③ 亀山電話中継所門標
- ④ 進行波管
- ⑤ ポケットベル
- ⑥ 自動車電話機
- ⑦ 28対無装荷ケーブル
- ⑧ 各種ケーブル類

(4) 情報検索システムの設置

展示品および関連項目について、簡単な操作で検索システムをアクセスすることにより情報を得ることが出来ることを目的として、来館時に電気通信の歴史に比較的興味が薄かった来館者層から、具体的な知識を求めて来館する層まで、多様な対応が可能となるように計画された。



NTT 情報検索システムコーナー

① 設置場所

テレコミュニケーションの歴史コーナー展示場ゾーン。

② 設置台数

3 台

③ 使用目的

- i 展示品に関する情報
- ii 通信総合博物館の所蔵品に関連する情報の提供

④ 情報の種類

この情報検索システムで扱う情報は、次の二種類とし、音声、動画については扱わないこととした。

- i テキストデータ
- ii 静止画データ

⑤ ナンバーリングシステムの実施

展示品および展示パネルにナンバーを付して、検索が随時かつ即時に実施出来るようにした。



INTERIOR / EXTERIOR / DESIGN / EQUIPMENT
ONY KOBO CO., LTD.
東京都千代田区神田神保町2-40-5 東久ビル
TEL (03) 3221-1102代 FAX (03) 3221-1185

動物園／水族館／博物館
企画・設計・施工

美術

は く 製

〈各 種 生 物〉
剥製・骨格標本・レプリカ
加工／販売／リース



有限 東洋近代美術研究所
会社

製作所 〒272 千葉県市川市本北方2-18-1 直通 ☎0473-37-5678
☎0473-37-5883
FAX 0473-38-1978
本 社 〒272 千葉県市川市国分5-3-25 ☎0473-74-1564

国際通信コーナーの改装

通信総合博物館 服部 泰弘

改装の実施経緯——多くなった「調整中」

「ていぱーく」の2階にある「ワールド・コミュニケーション・プラザ」はKDD（国際電信電話株式会社）の常設展示コーナーである。

120数年の歴史をもつ日本の国際通信に関する歴史的機器や文書等は、KDDの小山送信所の建物を利用してつくられた「国際通信史料館」（栃木県小山市）に展示されているので、ここ「ていぱーく」のKDDコーナーでは、科学館的要素をもたせた展示により、昭和39年以来、子供から大人まで広い層の方々に楽しんでいただいていた。

前回改装したのは、わが国で光海底ケーブルが初めて開通した昭和63年（1988年）。あれから6年以上もたてば国際通信に関する展示物の内容もう古い。光ケーブルも、この間に12万人もの人が同時に電話できるくらい大容量の回線がとれるまでに技術が進歩した。内容が非現行である、陳腐化しているという声の他に、目玉展示物の機器障害やパソコンのシステムダウンなどが頻繁に発生し、「調整中」が多くなった。このような理由で、今年の2月から約1か月半の予定で6年振りの改装工事に入った。

改装の考え方——ヒューマン企業とグローバル性を訴求

- ①情報の通信分野における社会教育施設
 - ②わが国における国際通信発展の歴史と、国際通信に関する科学技術の知識を習得できる場
 - ③国際通信事業の紹介と、企業のイメージアップの場
- というのが、当コーナーの位置づけである。

改装に当たっては、これらの位置づけと、入館者層が小学校高学年、中学生およびそのファミリー層であるということ踏まえて、

- ①報道、ビジネスから一般家庭生活にまで浸透している国際通信の密着感と親近感
- ②世界のあらゆる国と地域とをネットワークでむすぶグローバル性
- ③人の心と心とを結ぶヒューマン企業
- ④わが国を代表する国際通信のリーディング・キャリアであるというイメージ

を訴求ポイントとして展示内容を詰めた。内容の検討段階

では、

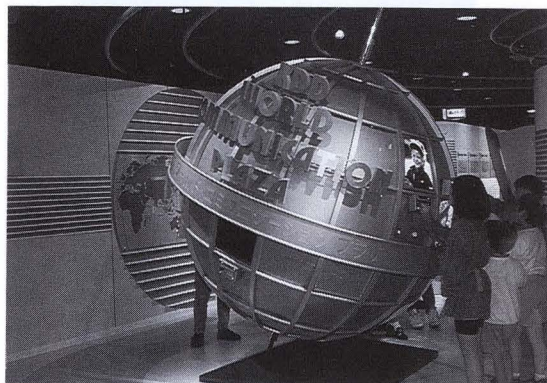
- ①展示物にインタラクティブ性、参加性を持たせる方法をできるだけ取り入れること
- ②見学者の再来場を喚起させるような内容であること
- ③コーナーはオープン感覚で、スペース的にゆとりをもたせること
- ④小・中学生の見学者が多いため、運用面および設備面で安全性が保てること
- ⑤今後、最低5年間は陳腐化しない内容であること等に留意した。

改装後の内容——目玉は「マルチメディア」体験コーナー

平成7年3月16日に改装工事が終了し、新しい「ワールド・コミュニケーション・プラザ」がオープンした。場内には国際通信の歴史や、国際通信に関する科学技術を楽しみながら学べるコーナーのほか、マルチメディア通信を体験できるコーナーを新設した。以下は各コーナーの概要である。

●「世界のことばでこんにちは」

エントランス・ゾーンにあるこのコーナーでは、地球をイメージした象徴モニュメントを設置。その上に取り付けられたスイッチに触れることにより、世界の子供たちが英語、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、アラビア語など8か国の言葉で「ハロー」、「ボンジュール」、「ニーハオ」と見学者に語りかけながら歓迎してくれるしくみとした。ちなみに、アラビア語「こんにちは」は、「アハラン ワ サハラン」という。



KDD「世界のことばでこんにちは」コーナー

●「国際通信のあゆみ」コーナー

世界で初めての通信手段である腕木信号機が作られ、通信を行ったのは1794年。それから70数年たった明治4年(1871年)、長崎・ウラジオストク間、長崎・上海間に海底電信線が開通してわが国の国際通信が始まった。このコーナーでは、以来今日まで120数年間のわが国における国際通信の発展の歴史を年表と写真で紹介している。



KDD「マルチメディアステーション」コーナー

●「グローバル・マルチメディア・ステーション」

今回の改装の目玉コーナーである。従来から国際テレビ電話の模擬体験ができるコーナーに人気があったため、今回もまずテレビ電話システムを導入することとし、テレビ電話の機能の他、複数の機能を付加しインタラクティブ性をもたせたマルチメディア端末を4席設けた。ふたり組になって遊んだり、ひとりでも楽しめる。二人ならおたがいに国際テレビ電話で話し合ったのち、国際通信に関するクイズを解きながら世界一周をする「ワールド・トラベル・ゲーム」で対戦することができる。また、一人なら自分で「ワールド・トラベル・ゲーム」を楽しむほか、「国際電話情報」や「世界の観光情報」、「グルメ情報」などがわかる簡易型「情報データベース検索」も体験できる。

●「国際通信のしくみ」コーナー

国際通信には大洋を横断する「海底ケーブル」と、赤道上空に打ち上げられた「通信衛星」が使われる。このコーナーでは「衛星通信」および「海底ケーブル通信」のしくみを解説したパネルや、インテルサットやインマルサット衛星の模型、海底ケーブル敷設船「KDD オーシャンリンク」の模型、さらには光海底ケーブルの実物カットサンプルや中継器の実物を展示して、国際通信のしくみをわかりやすく解説している。

●「グローバル・ネットワーク・シアター」

ジオラマとマジックビジョンを使って国際通信のしくみを視覚的に理解していただくコーナーである。日米間の国際電話のやりとりを、キャラクターである「ネット君」の説明を加えながら紹介するもので、あわせてKDDのめざすグローバル・マルチメディアも展望している。

* * *

今回の改装は、今後5年間くらいは大きな手直しをなくともよいようにと心掛けたが、通信技術の進歩は急速である。ものによっては来年にも古くなるものもある。したがって、展示物の製作にあたっては内容の修正、差し替え等が容易にできるよう配慮した。

次世紀にかけての情報通信革命として、時代のキーワードとなっているのが「マルチメディア」。これもいま現実のものになろうとしている。その一方で、テクノロジーの発展は地球上の距離をかぎりなく縮め、人々の日常生活においてもグローバル化が急速に進行している。このような環境下において、おくれることなく対応できる展示が今後求められる。

内容についての、ご意見、お問合せは
下記をお願いします。

〒100 東京都千代田区大手町2-3-1
通信総合博物館（ていぱーく）

「飛躍する博物館をめざして」について

学芸員 末永 三枝子

TEL 3244-6819 FAX 3244-6820

「展示更新」について

NTT コーナー 国保 次雄

KDD コーナー 服部 泰弘

TEL 3244-6831 FAX 3270-1346

加盟館園の特別展示

◆無線通信発明百周年記念行事の実施に伴う 通信総合博物館における記念展示会の開催

1. 経 緯

本年は、マルコーニが最初の無線通信の実験に成功してからちょうど100年目にあたる。

大西洋横断通信実験、短波帯の開発などマルコーニの切り開いた道は、今日の電波社会を創設し、また、新たな発展を遂げようとしている。

この記念すべき年に当たり、様々な記念行事を実施するため、「無線通信発明百周年記念行事実行委員会」が、組織され、記念シンポジウム、記念論文の募集、講演会等が計画された。

その一環として、通信総合博物館と実行委員会との共催で無線通信発明百周年記念展示会が開催されました。

2. 名 称

「マルコーニの無線通信発明からマルチメディア無線通信まで」

3. 開催趣旨

本年は、マルコーニが世界最初の無線通信の実験に成功してから百周年にあたり、この記念行事の一環として無線通信の発展の歴史を振り返り、その未来を考える契機とすることを目的として展示会を開催した。

4. 主 催

通信総合博物館
無線通信発明百周年記念行事実行委員会

5. 後 援

イタリア大使館

6. 会 場

通信総合博物館
千代田区大手町2-3-1

7. 会 期

平成7年7月21日(金)～8月13日(日)



「グリェリモ・マルコーニ」

8. 展示内容の概要

① マルコーニと無線通信の発明

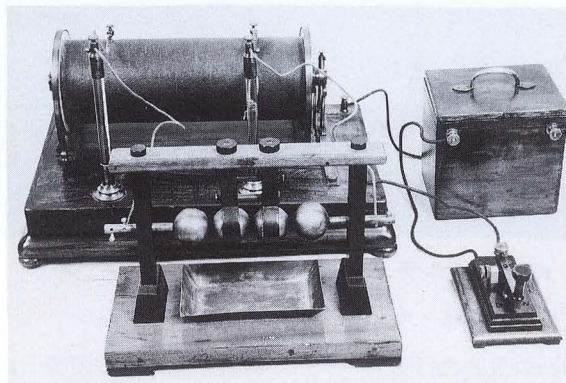
イタリアからの借用資料（マルコーニの発明した無線電信機等）を中心に展示し、マルコーニと無線通信の発明に至った経緯を紹介する。また、展示した無線電信機を使って交信実験を行う。

② 無線通信発達の歴史

無線通信発達の歴史を時代区分で現物資料、写真パネルを使って紹介

③ 災害と無線

災害時における無線通信の活動状況を写真等で紹介



「マルコーニの無線電信機（送信機）」

9. イベント

①現在そして未来の無線通信

②手作り科学工作教室

コヒーラ検電器を手づくりする科学工作教室

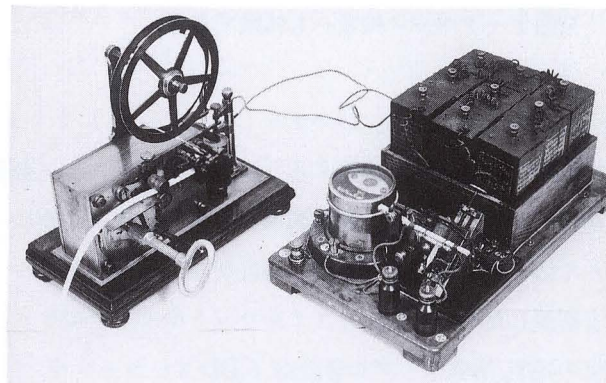
③日本アマチュア無線連盟によるアマチュア無線の公開運用

④電波に関する講演会及びマルコーニ記念講演会

⑤ NTT ノマドオフィスによる無線サービス実験

⑥立体ハイビジョン実験車による立体ハイビジョンの放映

⑦青少年向け科学映画の上映



「マルコーニの無線電信機（受信機）」

くわしいお問合せは

通信総合博物館 TEL 3244-6819 末永 三枝子

海 外 ニ ュ ー ス

(ハイフォン・安井亮)

<ユニークな展示>

米メリーランド科学館で、数学に関する常設展がオープン

子供を対象にした数学に関する常設展示が、米ボルチモアのメリーランド科学館で、1995年6月にオープンした。同展は、全米科学振興財団と米IBMからそれぞれ844,000ドルと495,000ドルの助成を受けて、ジョージ・ワシントン大学の数学者との共同研究事業として3年間かけて完成した。展示面積：約558平米。この展示面積と同じ規模の巡回展版も制作され、北米各地の科学館で巡回される。Beyond Numbers

ワシントン自然史博で、大洋に関する常設展がオープン

地球の大洋の生成と生態をあつかった常設展示が、ワシントン国立自然史博物館で1995年4月にオープンした。展示面積：約700平米。総工費4,100,000ドル。全米各地をまわる巡回展版(展示面積：約500平米)も制作された。同展のインターネット版も用意され、インターネットを通じて情報が配信されている。(http://seawifs.gsfc.nasa.gov/oceanplanet.html) Ocean Planet

<インターネット>

パソコン通信はわが国でもここ数年の間で急速に普及してきており、全科協の加盟館やその他の人文系のミュージアムでも電子メールをやりとりできる環境が(徐々に)出来上がってきている。一方、世界的な巨大電子通信情報網インターネットも官公庁や企業で利用することも増えてきたが、わが国のミュージアム界でもその活用を検討しているところが多い。筆者が知りうる限りでは、大日本印刷株式会社が自社のホームページ(http://www/dnp/co/jp)を利用して、インターネットで美術館情報の配信実験をスタートしたばかりだ。インターネットがミュージアムの世界で最も普及しているのはアメリカだ。ここ3、4年の間に、殆どの科学館はパソコン通信で電子メールのやりとりができ、なお且つインターネット上に情報配信用のサーバーを設置する館も年々増えてきている。今回は、日本からもアクセスできるミュージアムのサイトを紹介したい。

Exploratorium

<http://www.exploratorium.edu>

Oregon Museum of Science & Industry

<http://www.oms.edu/>

California Academy of Sciences

<http://www.calacademy.org>

The Computer Museum

<http://www.net.org>

Chicago Academy of Sciences

<http://www.mcs.com:80/cas/home.html>

Bishop Museum

<http://www.bishop.hawaii.org>

Franklin Institute Science Museum

<http://sln.fi.edu>

National Air and Space Museum

<http://ceps.nasm.edu>

National Museum of Natural History

<http://www/nmnh.si.edu>

Natural History Museum of Los Angeles County

<http://cwis.usc.edu.80/lacmnh.default.html>

Ontario Science Center

<http://www.osc.on.ca/>

Science Museum of Minnesota

<http://www.ties.k12.mn.us.80/slsc/>

Science World British Columbia

<http://www.ScienceWorld.bc.ca>

Slater Museum of Natural History

<http://huh.harvard.edu>

University of California Museum of Paleontology

<http://ucmpl.berkeley.edu/>

The Tech Museum of Innovation

<http://www.thetech.org>

米ロサンゼルス一帯のミュージアム情報

<http://cwis.usc.edu.lacmnh.losangeles.html>

* ハイフォン Fax : 03-3496-2146

Email : QFH03327@niftyserve.or.jp

—全科協情報—

加盟館の企画展・特別展示のご案内

第1回理事会・総会

平成6年度事業報告を了承

平成7年6月21日(水)に国立科学博物館において、平成7年度第1回全科協理事会及び総会が開催されました。

総会出席館は75館、委任状提出館は115館で、平成6年度の事業報告及び収支決算報告が承認されました。また、平成7年度事業計画の実施について審議・了承されました。

なお、主な議題は次のとおりです。

- ・「学芸員専門研修(アドバンスト・コース)」の実施(平成7年度新規事業)
- ・科学博物館等における公開天文台情報の活用に関する調査研究(平成6年度に引き続き追加事業)
- ・平成7年度予算の補正について(科学博物館等における公開天文台情報の活用に関する調査研究及び全科協データブック作成に対する文部省委嘱事業費並びに石橋財団助成金の交付に伴うもの)

議事終了後、神奈川県立生命の星・地球博物館長 濱田隆士氏による記念講演が行われ、その後は懇親会に場を移して情報交換が行われました。また、翌日の6月22日(木)には多摩六都科学館を視察し、全日程を終了しました。

全科協の2事業に文部省の補助金交付の内定

—民間社会教育活動振興費補助金—

全科協では文部省に対し、平成7年度民間社会教育活動振興費補助金の申請をしていましたが、このたび、2事業について補助金交付の内定がありました。

1つは、昨年度に引き続き内定を受けたもので、「研究発表大会」の実施と企画展等の事例集の作成を主な内容とするものです。実施に当たっては、「巡回展等実施準備検討委員会」において準備調査と方策研究を行い、その結果を研究発表大会に反映させていくこととしています。

もう1つは、「資料情報のネットワーク化に関する調査研究」の第3年次の事業に対して内定があったものです。今年度は科学系博物館資料情報ネットワークシステムのモデル的事業の実施及び全国的なネットワーク形成のための方策研究を予定しています。

○科学技術館「'95青少年のための科学の祭典」

小・中・高校の児童を対象に理科離れが若年化の傾向をたどっている現状打破のために、実体験を通して、科学の面白さや自然の不思議、発見の喜びや物を作り出す感動を提供する、青少年が科学技術に親しむ環境づくり運動を図ることを目的として開催される。詳細は科学技術館展示部(TEL.03-3212-8447)までお問い合わせください。

○東芝科学館「わくわく実験教室」

学校休校日となる毎月第2土曜日に、青少年を対象に、電気や電子の原理や仕組みについて実験を中心に学ぶ理科講座です。詳細は東芝科学館業務課(TEL.044-549-2200)までお問い合わせください。

○国立科学博物館「夏休み・サイエンススクエア」

国立科学博物館では平成7年8月1日(火)から8月20日(日)まで「夏休み・サイエンススクエア」を開催します。この企画展は子供たちが実際に制作や観察をすることによって、科学への関心を高めてもらおうというものであり、今年で5回目を迎えます。詳細は国立科学博物館普及部普及課までお問い合わせください。

全科協では、科学に関する展示活動や事業活動に対して積極的に後援を行っています。各館(園)において、共催・後援・協力等の名義使用の御希望がありましたら、随時事務局まで御連絡ください。(TEL.03-5814-9857)

東レ理科教育賞募集について

東レ科学振興会では中学・高等学校の理科教育における新しい発想と工夫考案に基づく教育事例に対して「東レ理科教育賞」を差し上げ、また受賞作品を教育現場に普及させるため、毎年「東レ理科教育受賞作品集」を制作・配布する事業を行っています。

- 対 象 ・生徒の科学に対する興味を深めるなど、よりよい理科教育のための指導展開。
- ・効果的な実験法、器材の活用法、自発的学習をうながす工夫など。
 - ・実験・観察、演示などの教材・教具の開発と

その実践例。

全科協加盟館の状況(平成7年6月、7月分)

■褒賞 理科教育賞(本賞):賞状、銀メダル及び賞金70万円、10件前後。ほかに、佳作及び奨励作を選定します。受賞作の普及・活用を図るため「受賞作品集」を刊行し、全国の中学校・高等学校および関係教育機関などに贈呈します。

■応募資格 中学校・高等学校の理科教育を担当する者、または研究・指導する者。(例えば、中学校・高等学校・高等専門学校・大学などの教員、指導主事、教育研究所・教育センター・博物館などの職員)

■応募手続 所定の応募用紙(申請書)に所定事項に記入し、当会あてに1部郵送してください。応募用紙は、葉書またはFAXで当会にご請求ください。

■応募締切日 平成7年9月30日(必着)

■問い合わせ先

財団法人 東レ科学振興会

〒279 千葉県浦安市美浜1丁目8番1号

(東レビル) TEL (0473) 50-6140

FAX (0473) 50-6082

入会

＜正会員＞琉球大学資料館(沖縄県)

柏木博物館(長野県)

＜購読会員＞東京都生活文化局コミュニティ文化振興課

株式会社 京都科学

平成7年6月30日現在の加盟数

正会員219館、購読会員24館、維持会員37館



COLORATA

Venture Into The Past The Living Earth Communication For The Future

ミュージアムグッズの企画・デザイン

カラータ株 〒111 東京都台東区浅草橋4-6-8 西澤ビル3F
TEL 03-3865-8110 FAX 03-3864-4049

Practical Specimens for Study of Earth Science

地学標本(化石・鉱物・岩石)
古生物関係模型(レプリカ)
岩石薄片製作(材料提供による薄片製作も受け賜ります。)

大英博物館/恐竜復元模型

縮尺: 実物の40分の1 精密教育用モデル、大英博物館製作による刻印入

TEL 03-3350-6725

上京時にはお気軽にお立寄り下さい。

[特に化石関係は諸外国より良質標本を多数直輸入し、力を入れておりますので教材に博物館展示等にぜひご利用くださいませ。]



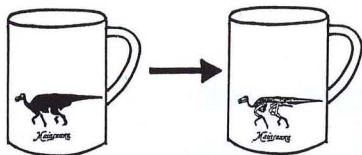
Fossils, Minerals & Rocks

株式会社 **東京サイエンス**

本社 〒150 渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル
TEL. 03-3350-6725 FAX. 03-3350-6745
ショールーム 紀伊國屋書店新宿本店1F TEL. 03-3354-9433

TOKYO SCIENCE CO., LTD.

恐竜マグ



あたたかい飲みものを入れると
骨格図にかわります!!

株式会社 アンティー

TEL 03-3467-6555

FAX 03-3467-6568

- * ミュージアム・ショップグッズの企画・製作・販売（マグカップ、Tシャツetc.）
- * 特設売店の代行

〒151

渋谷区富ヶ谷1-17-9
パークハイム302

事務局からのお知らせ

「全科協ニュース」を皆様の情報交換の場としてご活用ください。資料や情報の提供、標本等の借用希望、事業案内、ご提案、ご意見など、皆様の原稿をお待ちしています。

編集後記

7月号の編集は通信総合博物館が担当しました。

“21世紀型博物館に向けて”の魅力ある博物館に成長させるための活動状況や展示更新の取組みを紹介しました。各館園の教育活動について日頃考えていること、仕事上の苦労話、特別展の企画に関する問題、種々なアイデアを駆使した事柄等、みなさまからのナマの声をお聞かせください。

また、紙面の関係上、夏休みこども大会の詳細は紹介できませんでしたがプログラム及びお知らせ等の製作も進めていますので、ご質問等があればご連絡ください。

この記事分（1ページ分）のスペースがありましたら、掲載をお願いいたします。写真については、別途お送りします。

感動環境 創造会社です。

NOMURA

株式会社 乃村工 藝 社

本社：東京都港区芝浦4-6-4・電話03-3455-1171(代) 〒108

営業種目/ディスプレイおよび建築の調査・コンサルティ
ング・企画・設計・デザイン・プロデュース・演出・制作施工

動刻

▲恐竜ロボット
ティラノサウルス

感じる科学

▲人型ロボット
コスモ博士(宮崎科学技術館)

文化施設・商業施設・ディスプレイ企画・設計・施工

kokoro 株式会社ココロ

〒205 東京都羽村市神明台4丁目9番1号
TEL0425(30)3911(代)・3939(営業)
FAX0425(30)3900・3927(営業)